校長室だより～燦燦～ №６７７

節

2022.12.26

よくテレビで事件や事故が報道される。てっきり日本のことかと思って見ていると、中国のことだったりする。欧米であれば、街並みが違うため、すぐにわかる。ところが、中国や韓国などのアジア圏だと、映像がクリアではないため、日本のことなのかどうかがわからないときがある。

中国の映像を見ていると、建設中のビルの足場が、どう見ても竹にしか見えないときがある。縦横につながり、組まれている何千、何万本もの竹である。「大丈夫なのか」と思ってしまう。日本であれば、鉄骨を組むことが多いであろう。日本のほうが進んでいるなと思っていた。

ところが、最近になって、自分の認識が間違っていたことに気づいた。足場に竹を使っているのは、竹のもつ強さにその理由があった。竹は、多くの樹木に比べると細い。だが、両側からの引っ張りに耐える強度は、鉄筋以上だと言われている。その竹の強さの秘密は、竹の幹にある「節」にある。また、背の高い竹は、「節」があることで、横からかなりの強風が当たっても耐えることができる。しなやかで、折れにくくなっている。

「節」の大切な役割、働きと同じように、小学校６年間、中学校３年間、高等学校３年間という、まとまった期間を送る中で、この「節」の役割をするのは、進学や進級だろうか。竹は、太陽の光や土からの栄養分を受けて、いわば、外部からの働きがあって、「節」をつくりながら成長していく。一方、私たち人間は、自分の成長が途中で折れないよう自分で節づくりをしていく必要がある。

人生も同じである。長い人生を送る中で、「節」の役割をすることが起きる。「人生の節目」という言葉もある。節目という言葉は、物事の区切り、転機などの意味で使われる。誰にでも、人生の転機はあるだろう。

３０年以上もの長きにわたって、教員という同じ仕事を続けていても、節目はある。転機は訪れる。思い返せば、何度か節目はあった。反省するのは、自分で節づくりをしてきたのかという点である。自分の人生は、しなやかで、折れにくい竹になるような節づくりだったのだろうか。甚だ心許ない。

自分ではなく、他の人に節づくりをしていただいた人生だったのではないか。多くの人に助けられ、教えられ、お世話になり、その恩返しもできないままの人生である。あともう少し、節づくりは続く。この先、転機が訪れるかどうかはわからない。だが、しなやかさと強さを兼ね備えたような竹になるよう、残りの節づくりに励んでいきたい。